

⑤ 日本国特許庁(JP)

⑥ 特許出願公開

⑦ 公開特許公報(A) 昭61-199807

⑧ Int. Cl.⁴
A 45 D 34/04

識別記号

庁内整理番号
6671-3B

⑨ 公開 昭和61年(1986)9月4日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑩ 発明の名称 繊維材入りマスカラ用容器

⑪ 特 願 昭60-38870

⑫ 出 願 昭60(1985)3月1日

⑬ 発 明 者 奥 田 吉 則 滋賀県野洲郡野洲町大字上層八幡地 マックスファクタ
株式会社滋賀工場内
⑭ 発 明 者 益 山 勝 三 東京都府中市西府町4-25-40
⑮ 出 願 人 マックスファクター株 東京都渋谷区神南1丁目12番13号
式会社
⑯ 出 願 人 東京パーツ株式会社 東京都府中市日新町1丁目2番8号
⑰ 代 理 人 弁理士 寺 田 正 外1名

明 細 書

繊維材入りマスカラ用容器。

1. 発明の名称

繊維材入りマスカラ用容器

2. 特許請求の範囲

1. 繊維材入りマスカラを収納する容器本体と、この容器本体の口部に冠着する蓋とからなり、この蓋に、容器本体内部へ押込む軸と、この軸先端において、軸の方向に伴って繊維材を嵌合保持する溝とからなる蓋布具を設け、さらに容器本体の口部に、蓋布具を引出す際に、容器本体内部側が大径のテーパ状表面を有し、蓋布具外周に付着したマスカラを抵抗するとともに、溝から一部突出した繊維材を溝内に押込む抵抗バネ体を設けたことを特徴とする繊維材入りマスカラ用容器。

2. 抵抗バネ体を厚板材より形成し、蓋布具を差し込む際には容器本体内部側が小径のテーパ状であり、蓋布具引出し時に反転して容器本体内部側が大径のテーパ状表面が形成されるようにした特許請求の範囲第1項記載の繊

3. 抵抗バネ体の容器本体内部側表面をテーパ状に形成した特許請求の範囲第1項記載の繊維材入りマスカラ用容器。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は軟毛、合成繊維片等を嵌入させた繊維材入りマスカラについて使用する容器に関する。

(従来の技術)

従来は繊維材入りマスカラに、通常の繊維材を嵌入させないマスカラの容器をそのまま使用していた。すなわち容器本体と蓋とからなり、蓋に凹み状、溝状あるいは突起状の蓋布具を設け、容器本体の口部に抵抗バネ体を設けた容器を用いていた。

(発明が解決しようとする問題点)

この容器を繊維材入りマスカラについて用いると、凹み状蓋布具では、繊維材が付着したとき、その方向が不定となるので嵌合しにくい。

筒状巻布具では、巻布の側面に繊維材が万肉を不定形に付着するので扱いにくい。筒状巻布具では、溝内に方向を揃えて繊維材が有められるので巻布しやすいが、巻布具を巻布本体から引出すとき、巻布本体内で溝に一部嵌合して付着した繊維材が口部の拡張パッキン体で拭い取られてしまい、極めて少量の繊維材しか取出すことができない。

そこで本発明は、この巻布しやすい筒状巻布具を用い、溝内に多量の繊維材を含ませて取出すことができるような巻布を実現することを目的としてなされたものである。

(問題点を解決するための手段)

すなわち本発明は、筒状巻布具と、巻布本体内部側に大径のテーパ状表面を有する拡張パッキン体とを組合せて使用しよう構成したものである。

(作用)

したがって本発明の巻布では、巻布具を引出す際、拡張パッキン体は、溝に一部嵌入し、一

部突出した状態で付着している繊維材を拭い取るのではなく、反対にそのテーパ状表面で溝内に押込む作用をし、多量の繊維材を取出すことができる。

(実施例)

以下本発明を図示する実施例について説明する。第1図に示す巻布10において、巻布本体11は内部に繊維材入りマスカラ12を収納し、蓋13はこの巻布本体11の口部に蓋着する。

蓋13には軸体14および蓋15からなる巻布具16が取付けられている。軸体14は丸棒等円筒等の棒状体よりなり、蓋13から巻布本体11内に伸びる。溝13は、第2図に示すように、軸体14の先端の正面および背面に、横方向に伸びるように形成されている。この溝13内にはマスカラ12を溜めることができ、また、溝15の内部にマスカラ12中の繊維材17を嵌入保持することができる。さらにこの溝15は軸体14の正面と背面とで大きさが異なり、まづけに蓋着する際両者を便いわけ蓋の調節をすることができる。なおこの例

では大小2種類の溝を形成しているが、1種類でも、3種類以上を形成してもよく、また溝は正確に横方向に伸びるものではなく斜方向等略横方向に伸びるものであればよい。さらに溝の断面形状も四角形状に限らず、三角形状等任意の形状とすることができる。

巻布本体11の口部には拡張パッキン体18が設けられ、巻布具16を引出す際、巻布具外周に付着したマスカラ12を拡張する。この拡張パッキン体18はゴム等の弾性体より形成され、巻布具16差込み時には、第3図に示すように、巻布本体11内部側に小径のテーパ状であり、巻布具16引出し時には、第1図に示すように、反転して巻布本体11内部側に大径のテーパ状表面19が形成される。

なおこの拡張パッキン体18に代えて、第4図に示す拡張パッキン体18'のように、巻布本体11内部側に大径のテーパ状表面19'となり、反転しないものを用いてもよい。

(発明の効果)

この巻布10は以上の構成であるから、巻布具16を巻布本体11内に差込み、マスカラ12を溝13に付着させた後、引出すと、拡張パッキン体18は、巻布具16外周に付着したマスカラ12を拡張するとともに、溝15から一部突出した状態で付着している繊維材17を、そのテーパ状表面19で溝15内に押込む。したがって引出した巻布具16の溝13内には多量の繊維材17が嵌入保持され、しかもこの繊維材17は溝15に沿って円方向に揃っているため、容易かつ良好にまづけに巻布することができる。

さらに上記拡張パッキン18のように反転するものでは、溝表面を用い、しなやかに巻布具に接するようにことができ、巻布具の出入の際の摩擦を良好なものとすることができる。

すなわち本発明の繊維材入りマスカラ用巻布具では、筒状巻布具の強い力を生じつつ、さらに拡張パッキン体にテーパ状表面を取付、この面で繊維材を拭い取るのではなく、溝内に押込む作用をさせ、繊維材を良好に取出し、有効に

使用することが可能となる。

4. 要旨の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例の散布具引出し時を示す正断面図であり、第2図は図1はそれぞれ散布具の正面図、右側面図、背面図、底面図であり、第3図は同実施例の散布具差込み時を示す正断面図である。第4図は他の実施例の散布具を用いた例を示す正断面図である。

10 繊維材入りマスカラ用容器、 11 容器本体、 12 繊維材入りマスカラ、 13 蓋、 14 軸体、 15 筒、 16 散布具、 17 接触部、 18, 18' 拡張バツカン体、 19, 19' ラーバ状膜。

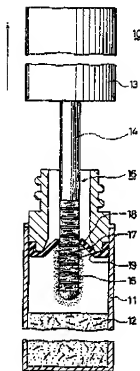
特許出願人

マックスアプター株式会社
東京パーマ株式会社

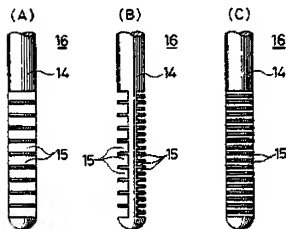
代理人

弁護士 寺田 正外1名

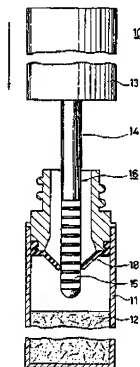
第1図



第2図



第3図



第 4 図

